

第4期八王子市地域福祉計画

～ つながる地域 で つなげる未来 ～



※令和2年(2020年)6月19日「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が東京都初の日本遺産に認定

「地域福祉」の計画とは

(地域福祉の推進)

第4条 地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

誰もが地域社会からの孤立せず、日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される社会を、様々な立場の主体で支えていくこと。

分野を越えた「地域のつながり」づくり

誰もが主体

生活環境や心身状態等が異なる一人ひとりの「福(しあわせ)」を
市全体で守り、支えていく仕組みや体制を作っていくための計画

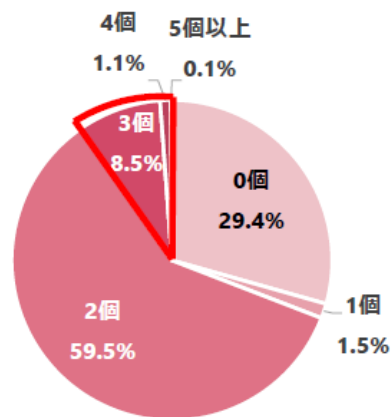
しあわせが脅かされている…

新型コロナウイルス感染症による相談者像の変化（抱える課題の数）

コロナ後では、3個以上の課題を抱える相談者が半数以上に増加しており、複合的な課題を抱える相談者が増加

抱える課題の数

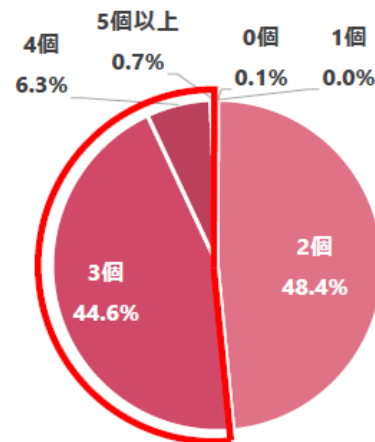
コロナ前（2020年1月）



n=18216

3個以上の割合：9.7%

コロナ流行下（2021年1月）



n=29674

3個以上の割合：51.6%

新型コロナウイルス感染症による相談者像の変化（男性）

10代において「社会的孤立」、20代以上において「住まい不安定」や「ホームレス」といった住まいに関する課題が多く見られる

課題の特性（男性・年代別）

※ 「その他」を除く。

※ 赤枠：コロナ前と比較して順位が3つ以上上がったもの。

コロナ前（2019年11月～2020年1月）

	～10代 (n=171)	20代 (n=1107)	30代 (n=1452)	40代 (n=2460)	50代 (n=3032)	60代 (n=2367)	70代～ (n=1616)
1位	就職活動困難 37.4%	経済的困窮 52.6%	経済的困窮 53.2%	経済的困窮 53.3%	経済的困窮 55.3%	経済的困窮 47.1%	経済的困窮 41.9%
2位	経済的困窮 31.6%	就職活動困難 38.8%	就職活動困難 38.4%	就職活動困難 37.3%	就職活動困難 37.3%	病気 29.0%	家計管理 29.0%
3位	家族関係 28.1%	家族関係 28.8%	メンタルヘルス 31.5%	就職定着困難 25.5%	病気 29.1%	就職活動困難 25.8%	病気 28.2%
4位	コミュニケーションが苦手 22.8%	メンタルヘルス・就職定着困難 28.4%	就職定着困難 26.7%	病気 24.6%	家計管理 23.8%	家計管理 25.2%	就職活動困難 17.9%

コロナ流行下（2020年11月～2021年1月）

	～10代 (n=141)	20代 (n=2137)	30代 (n=3213)	40代 (n=4508)	50代 (n=5050)	60代 (n=3296)	70代～ (n=1880)
1位	経済的困窮 39.0%	経済的困窮 71.0%	経済的困窮 76.4%	経済的困窮 74.8%	経済的困窮 73.5%	経済的困窮 71.2%	経済的困窮 59.1%
2位	社会的孤立 32.6%	住まい不安定 24.7%	住まい不安定 24.5%	住まい不安定 24.3%	就職活動困難 25.8%	就職活動困難 24.2%	ホームレス 26.2%
3位	就職活動困難 29.1%	就職活動困難 23.0%	就職活動困難 21.2%	就職活動困難 23.0%	住まい不安定 22.3%	住まい不安定 21.8%	就職活動困難 19.9%
4位	コミュニケーションが苦手 27.7%	就職定着困難 14.4%	就職定着困難 13.4%	家計管理 13.7%	病気 16.1%	病気 18.5%	病気 18.2%

新型コロナウイルス感染症による相談者像の変化（女性）

10代において「コミュニケーションが苦手」、20代以上において「住まい不安定」という課題が多く見られるようになった。30・40代においては「ひとり親」という特性も増加

（生活困窮者自立支援統計システムより抽出）

課題の特性（女性・年代別）

※ 「その他」を除く。
 ※ 赤枠：コロナ前と比較して順位が3つ以上上がったもの。

コロナ前（2019年11月～2020年1月）

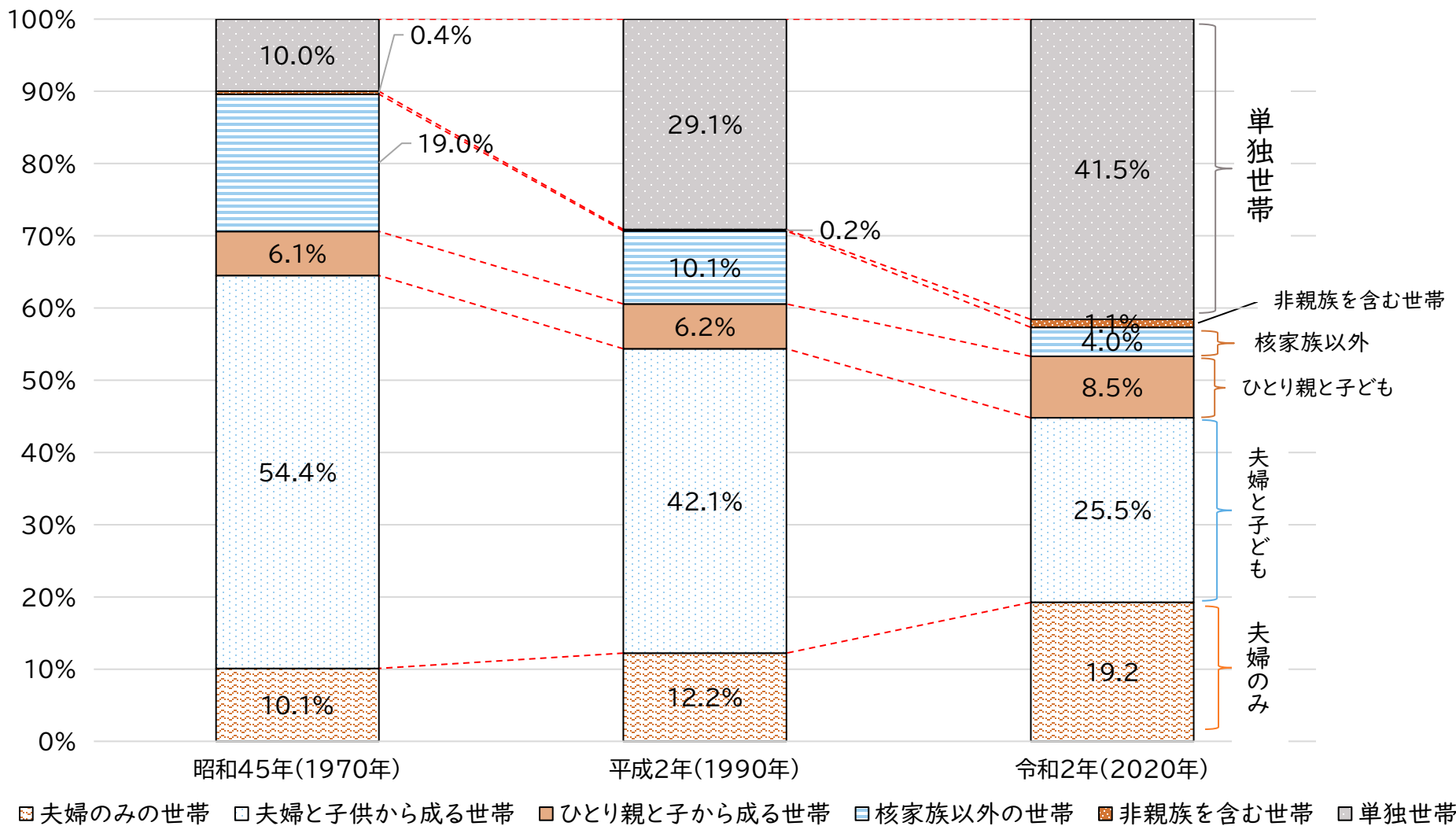
	～10代 (n=150)	20代 (n=847)	30代 (n=1170)	40代 (n=1549)	50代 (n=1291)	60代 (n=825)	70代～ (n=885)
1位	家族関係 41.3%	経済的困窮 56.9%	経済的困窮 53.1%	経済的困窮 52.6%	経済的困窮 61.3%	経済的困窮 63.9%	経済的困窮 54.4%
2位	就職活動困難 35.3%	就職活動困難 38.0%	家族関係 36.1%	メンタルヘルス 34.7%	家計管理 35.6%	家計管理 33.2%	家計管理 38.5%
3位	経済的困窮 29.3%	メンタルヘルス 36.1%	メンタルヘルス 32.6%	家族関係 33.9%	家族関係 33.8%	家族関係 32.4%	家族関係 32.5%
4位	メンタルヘルス 28.0%	家族関係 34.0%	家計管理 30.1%	家計管理 30.9%	就職活動困難 33.0%	就職活動困難 32.2%	病気 32.0%

コロナ流行下（2020年11月～2021年1月）

	～10代 (n=124)	20代 (n=1426)	30代 (n=2204)	40代 (n=2818)	50代 (n=2416)	60代 (n=1364)	70代～ (n=953)
1位	経済的困窮 36.3%	経済的困窮 68.8%	経済的困窮 73.0%	経済的困窮 74.7%	経済的困窮 78.3%	経済的困窮 78.4%	経済的困窮 74.3%
2位	コミュニケーションが苦手 33.1%	住まい不安定 30.2%	住まい不安定 28.0%	住まい不安定 25.3%	住まい不安定 24.6%	就職活動困難 25.5%	就職活動困難 23.8%
3位	メンタルヘルス 29.0%	就職活動困難 27.2%	就職活動困難 23.2%	就職活動困難 23.6%	就職活動困難 24.6%	住まい不安定 24.5%	家計管理 22.6%
4位	家族関係 27.4%	家族関係 16.6%	ひとり親 19.2%	ひとり親 18.4%	家計管理 18.4%	病気 19.4%	病気 22.1%

世帯構成の変化

令和2年度(2020年度)国勢調査をもとに作成



社会の変化に伴う新たな課題 孤独・孤立

「孤独」（一般的な捉え方）

主観的概念であり、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいことという感情を含めて用いられることがある

「孤立」（一般的な捉え方）

客観的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指す

孤独と孤立は密接に結びついているが…

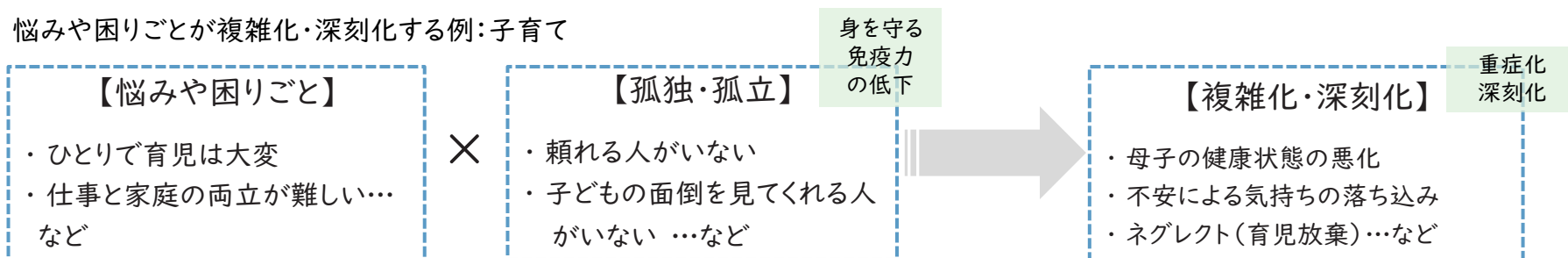
・孤立しているが孤独は感じていない ・孤立していないが孤独を感じている

「一人であること」が問題ではなく、悩みや困りごとが生じた際に、一人で抱え込んでしまうことで、複雑化・深刻化することが問題

「孤独・孤立の状態」（国の関係法における定義）

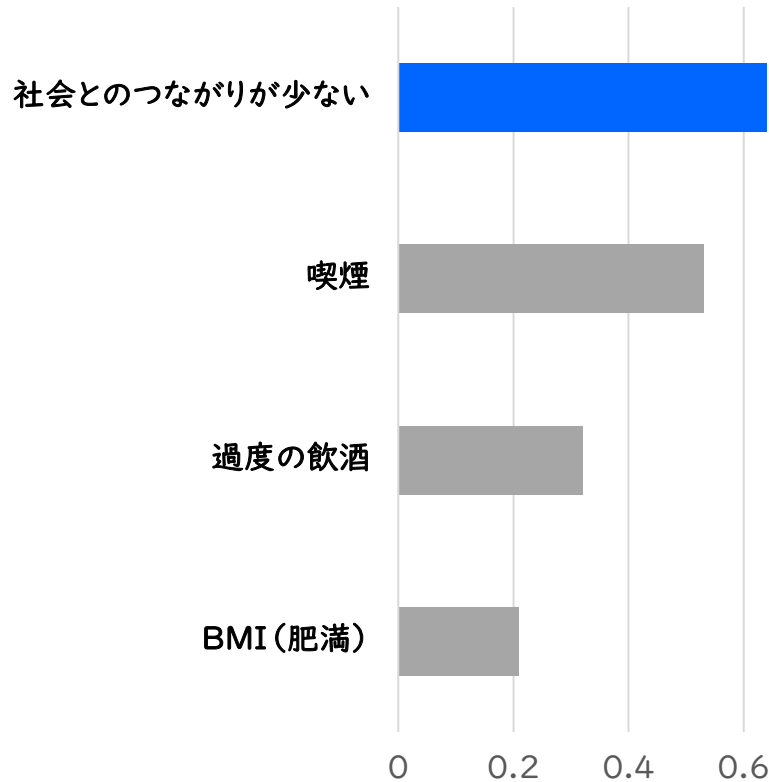
孤独又は孤立により心身に有害な影響を受けている状態

悩みや困りごとが複雑化・深刻化する例：子育て



“つながり”がないことの影響

生活様式が死亡率に与える影響

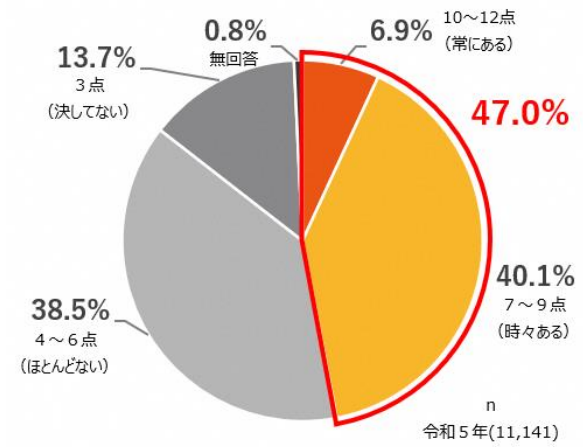


Holt-Lunstad J, Smith TB, Layton JB (2010) Social Relationships and Mortality Risk: A Meta-analytic Review. PLoS Med 7(7): e1000316. <https://doi.org/10.1371/journal.pmed.1000316>

孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(令和5年)より

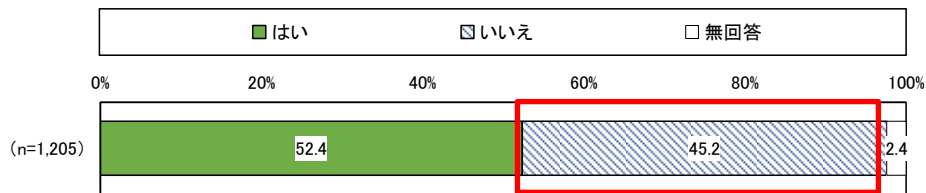
- ①あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。
- ②あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。
- ③あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 決してない | 3. 時々ある |
| 2. ほとんどない | 4. 常にある |



地域での活動参加経験（地域で活動するボランティア等も減少）

これまでに地域での活動に参加したことがありますか。



地域での活動に参加していないのはなぜですか。

	機会がないから	自分の生活で精一杯だから	時間がないから	仕事が忙しくて余裕がないから	活動の内容や参加の方法がわからないから	興味や関心がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	やりたい活動がないから	現在の活動内容に不満だから	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=545)	32.5	25.1	22.2	20.4	20.0	18.2	14.9	9.5	0.9	7.7	11.6	2.8
平成28年度 (n=613)	34.7	33.4	28.5	29.5	19.6	12.2	13.9	5.9	1.0	6.5	7.7	1.3
30歳未満 (n=52)	30.8	28.8	32.7	28.8	21.2	28.8	11.5	9.6	0.0	0.0	5.8	0.0
30歳代 (n=71)	46.5	28.2	29.6	22.5	25.4	28.2	23.9	16.9	0.0	4.2	4.2	2.8
40歳代 (n=95)	31.6	25.3	30.5	35.8	22.1	15.8	17.9	8.4	2.1	6.3	8.4	1.1
50歳代 (n=82)	32.9	24.4	30.5	30.5	19.5	22.0	12.2	4.9	1.2	4.9	4.9	1.2
60歳代 (n=83)	43.4	25.3	20.5	13.3	21.7	7.2	12.0	6.0	1.2	10.8	6.0	3.6
70歳代 (n=90)	24.4	25.6	8.9	7.8	16.7	18.9	12.2	10.0	1.1	15.6	20.0	1.1
80歳以上 (n=68)	17.6	19.1	5.9	4.4	13.2	10.3	14.7	13.2	0.0	8.8	29.4	10.3

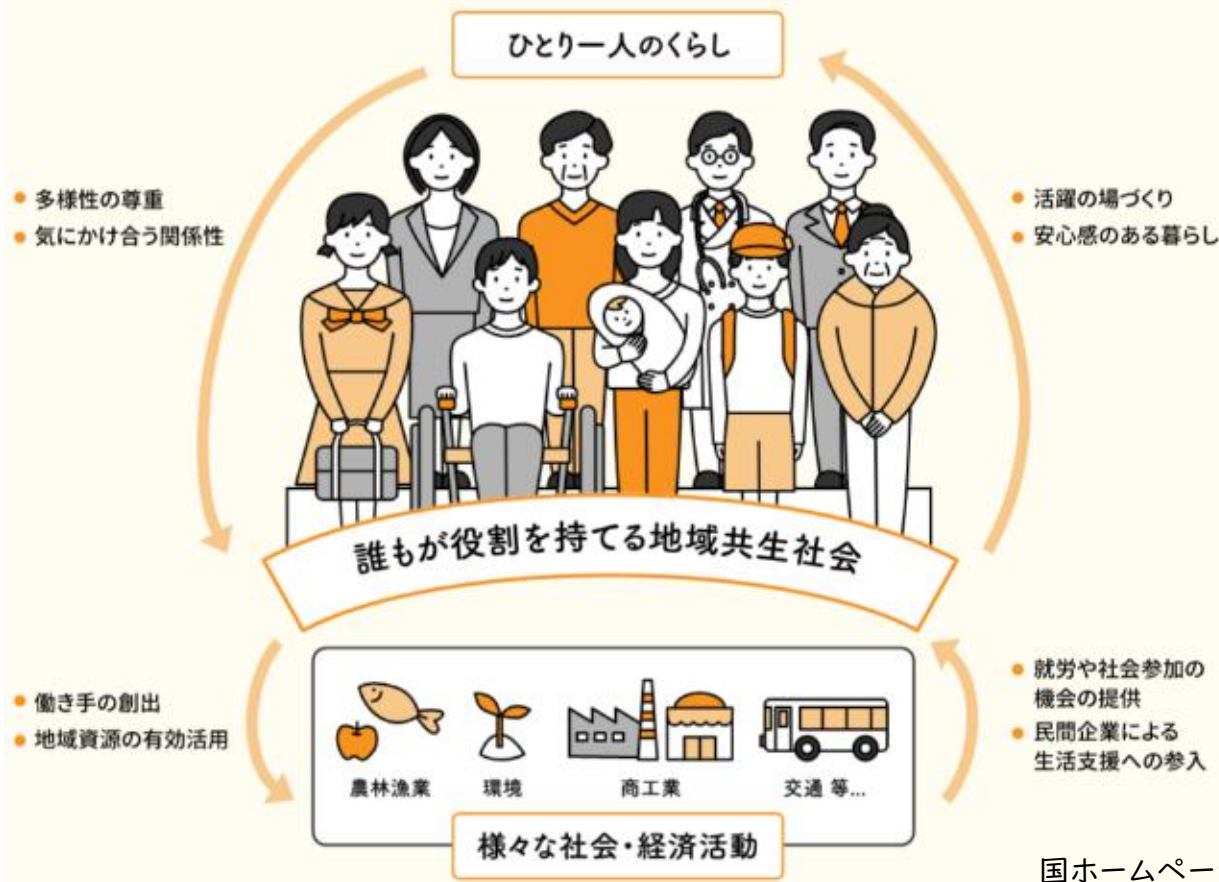
新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査
(令和4年度実施)より

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/ab005/ac769652/ab468523/p021266.html>



「地域共生社会」の実現

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指す。(地域共生社会)



ふだんのくらしのしあわせを目指して

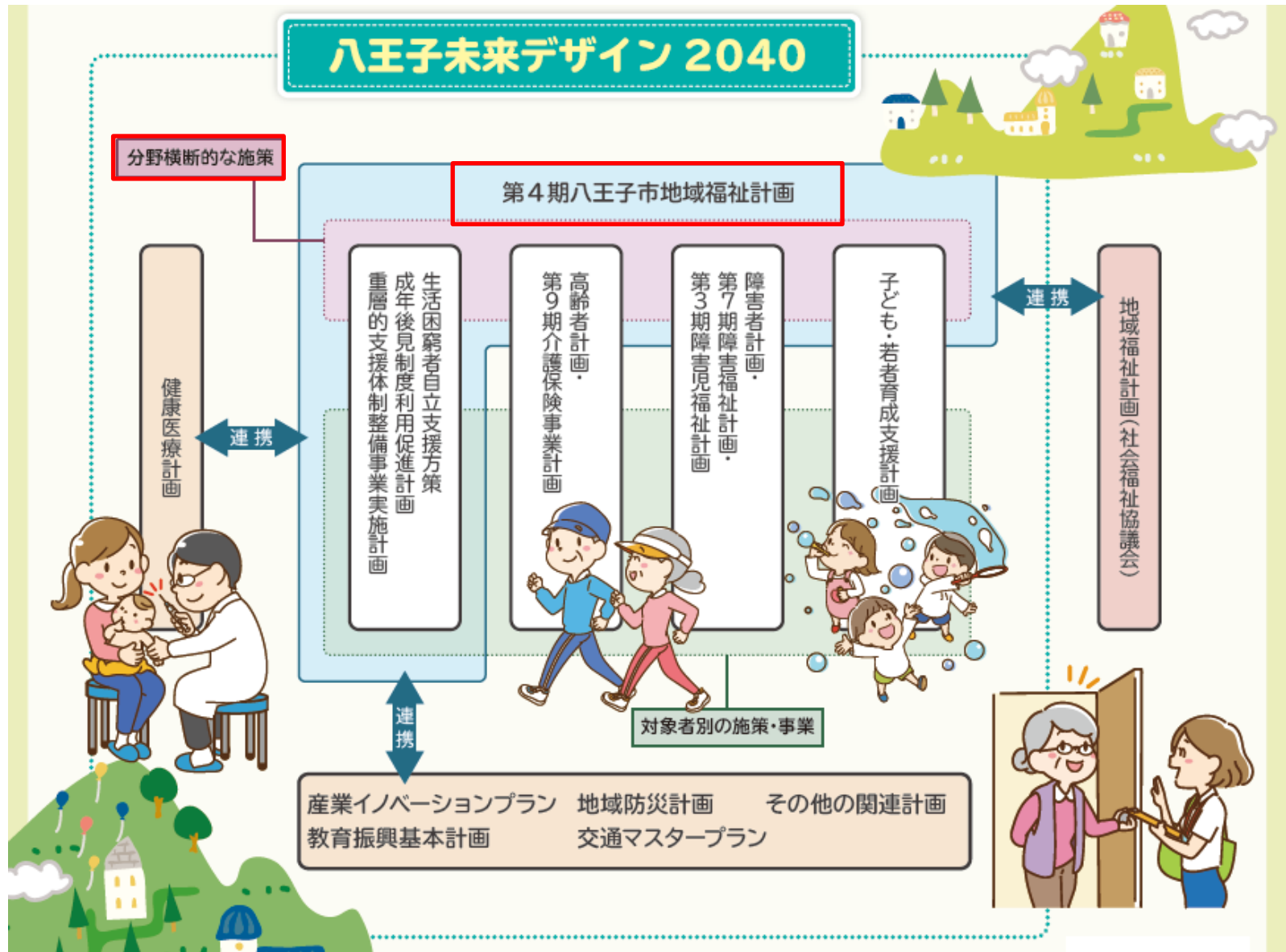
高齢化の中で人口減少が進行している日本では、福祉ニーズも多様化・複雑化している。
人口減による担い手の不足や、血縁、地縁、社縁といったつながりが弱まっている現状を踏まえ、人と人、人と社会がつながり支え合う取組が生まれやすいような環境を整える新たなアプローチが必要。



第4期八王子市地域福祉計画

～ 地域共生社会の実現を目指して ～

地域福祉計画の位置付け



市の基本計画（未来デザイン2040）の方針とキーワード

～「八王子未来デザイン2040」の基本構想を踏まえた計画推進～
人とひと、人と自然が響き合い、**みんなで幸せを紡ぐ**まち八王子

【福祉分野の取り組み】

「**みんなで目指す2040年の姿**」を目指した「**地域福祉分野**」の推進

- 02. 住み慣れた地域で元気に年を重ね、人生100年時代を生き生きと暮らしている
- 03. それぞれの個性を互いに認め合い、それぞれが望むフィールドで活躍している
- 05. 子どもの幸せをみんなで分かち合い、安心と喜びを持って子育てしている

未来デザイン2040の「キーワード」

- 未来を拓く原動力：地域自治、共創
- 変革のキーワード：DX（デジタル・トランスフォーメーション）、カーボンニュートラル

新たな「八王子市地域福祉計画」のキーワード (第4期：令和6年度(2024年度)～11年度(2029年度))



第4期地域福祉計画

【基本目標】

だれもが、地域の中で、共に支えあい、安心して、
元気で生き活きと暮らすことができるまちづくり

【めざす姿】

“市民力・地域力” 地域における つながりあい

※ 人とひと、人と地域が世代や分野を超えつながる」という
地域共生社会の理念を「めざす姿」に反映するため、
「つながりあい」という言葉を含めました

新たな「八王子市地域福祉計画」のキーワード
(第4期：令和6年度(2024年度)～11年度(2029年度))

“つながる”

人とひと、人と地域、人と情報、専門職と専門職、多様な“つながる(り)”を
新たに生み出す、様々な施策を示す。

“つながる”を視点とした施策展開

3つのテーマ

地域のつながり

人材のつながり

サービスの
つながり

地域福祉を推進するしくみの充実
一人ひとりの幸せを地域全体で
支え合うさりげない“つながり”
・多様な“つながり”

人材の充実・育成・活用
地域で安心して暮らし続けることが
できる多様な人材の重層的な
“つながり”

福祉サービスの充実
支援が必要になっても自立した
日常を継続できるサービスの
“つながり”

施策

誰もが地域の力になれる
しくみづくり

福祉や健康づくりが
日常になる環境づくり

福祉関係者などとの連携強化と
新たな担い手づくり

様々な専門職との連携と
包括的な支援体制の強化

一人ひとりに知りたい
情報が届くしくみの充実

隙間のないサービス提供と
効果的なサービス運用体制
の充実

第4 地域福祉計画で取組む課題（基本設計）

第4期計画で取り組む3つの課題

- (1) 多様な主体が各々の特長や知恵、ノウハウを活かし、これまで以上につながりを強め、潜在化する地域生活課題の早期発見や協力して解決に取り組む「地域をつなげる」しくみの構築。
- (2) 複雑化・複合化が進む地域生活課題に福祉関係機関が一体となって対応する包括的な支援体制を強化し、地域生活課題を速やかに適切な支援につなげる関係機関や専門職間の「人材をつなげる」取組の構築。
- (3) 福祉的な支援が必要になった時、速やかに必要な支援が得られるように、福祉サービスや相談できる窓口・人などの情報を、地域住民が日常的に知る（学ぶ）ことができる「サービスをつなげる」機会の充実。

“つながる”をキーワードにした“4つの特長”

窓口や福祉サービスの
認知度向上

自分らしく社会と
つながる
“つなぎ手”

つながる
×
地域福祉

多様な主体ごと
期待する「役割」

重層的支援体制整備
事業の深化・推進

特徴① 日常生活に溶け込む福祉の “つなぎ手”

つなぎ手のイメージ

福祉と“つながる”
(行動する)

“自分のライフスタイル”で
“つなぐ”行動をしてみる!



気になることを“つなぐ”

情報と“つながる”
(知る・学ぶ)

“地域の課題ってなに?”
“自分にできることは何か?”
“どこに相談すればいい?”



福祉の情報を得る

人や地域と“つながる”
(周りに関心を持つ)

“ご近所で挨拶しよう”
“地域の集まりに参加してみよう”
“つながる機会や範囲を広げてみよう”



気にかける

“つながる”意識をもち、知る・学ぶ機会を通じて福祉に“つなぐ”「つなぎ手」の充実

特長② 重層的支援体制整備事業（分野横断的な支援体制の整備）

方針

「重層的支援体制整備事業」深化・推進の視点

地域生活課題の深刻化予防に向けた**早期把握と支援へのつながり**

①

早期発見・早期支援へのつながりを目的とした地域への「アウトリーチ」強化

潜在化している問題を発見（掘り起こし）し、適切な評価のもと必要な支援や情報につなげる

②

相談機関の認知度を向上（普及啓発の充実・問題に備える）

いざという時に備え、予め相談窓口やサービスを「知る」「学ぶ」機会を充実する

③

様々な支援機関や専門職との“つながり”強化（情報共有、相互理解、チーム対応）

分野の垣根を越えた多機関の協働体制の強化（複雑化した問題への対応力向上）

④

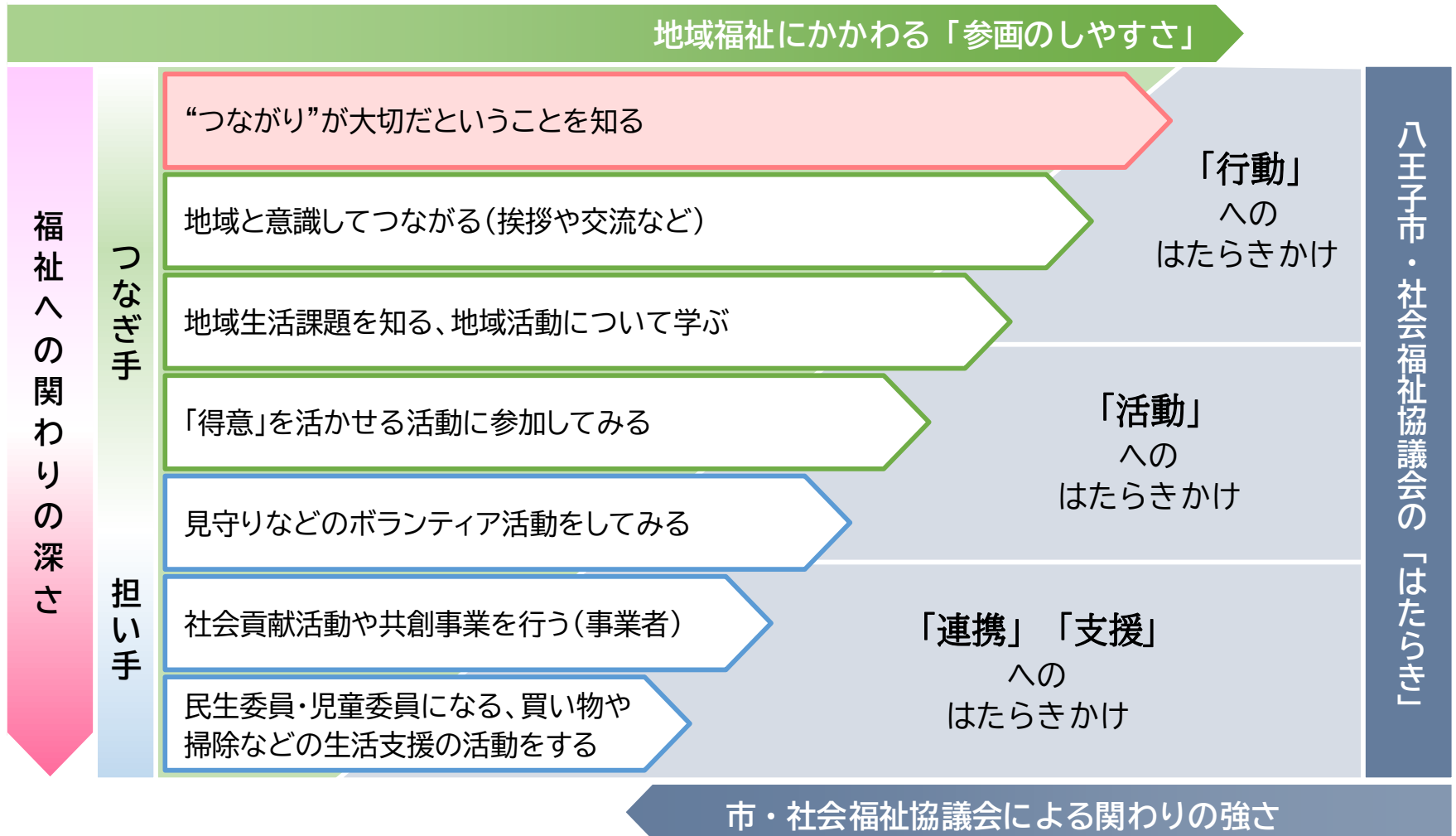
地域住民や企業等による見守りや居場所づくり、地域活動の充実

地域住民の居場所や交流機会を増やし、課題発見の機会を充実する など

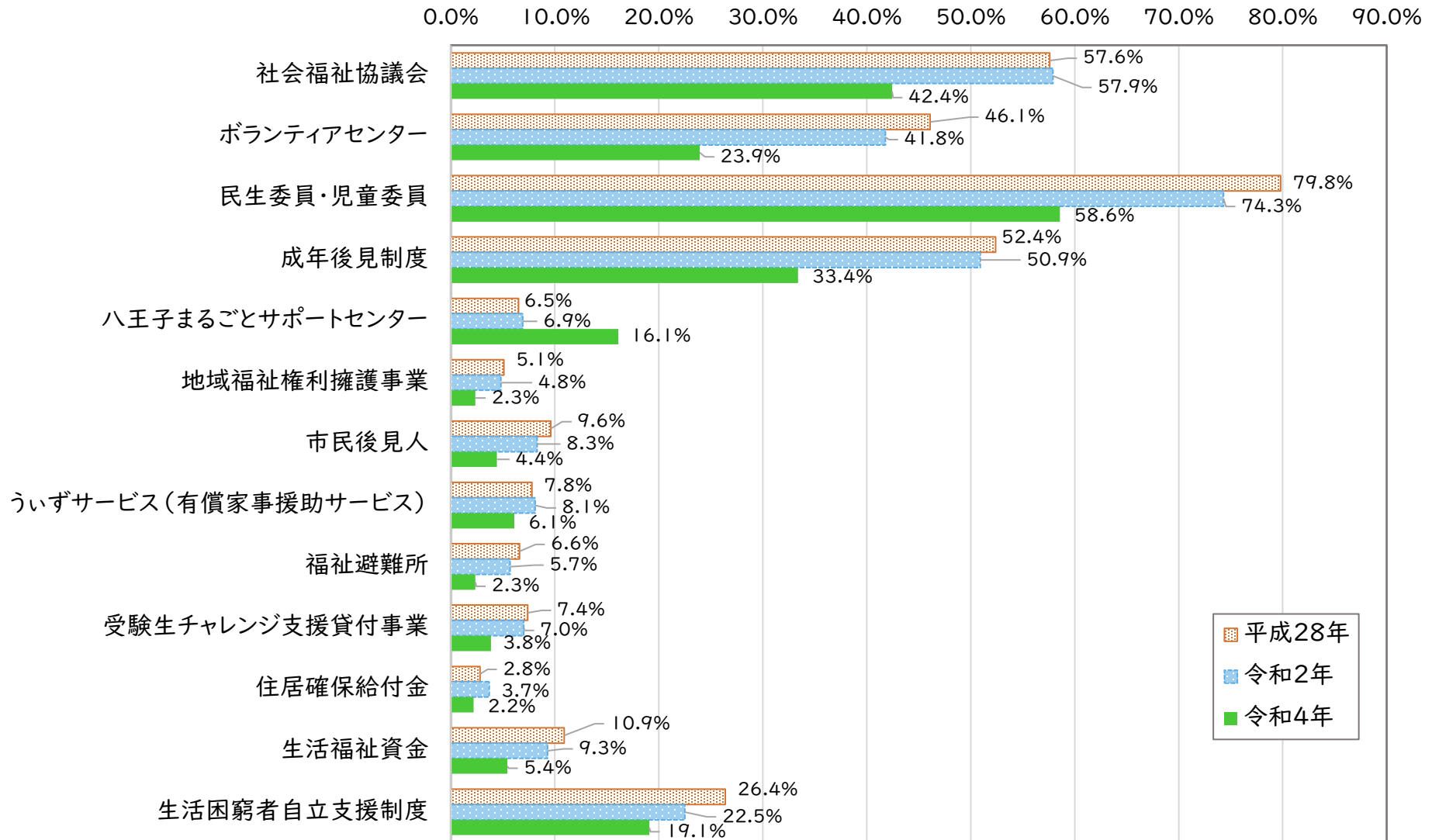
特長③ 多様な主体を巻き込む「はたらきかけ」

「自分らしく」日常で福祉を担う

地域福祉にかかわる「参画のしやすさ」



特徴④ 福祉に関する窓口やサービスの認知度向上

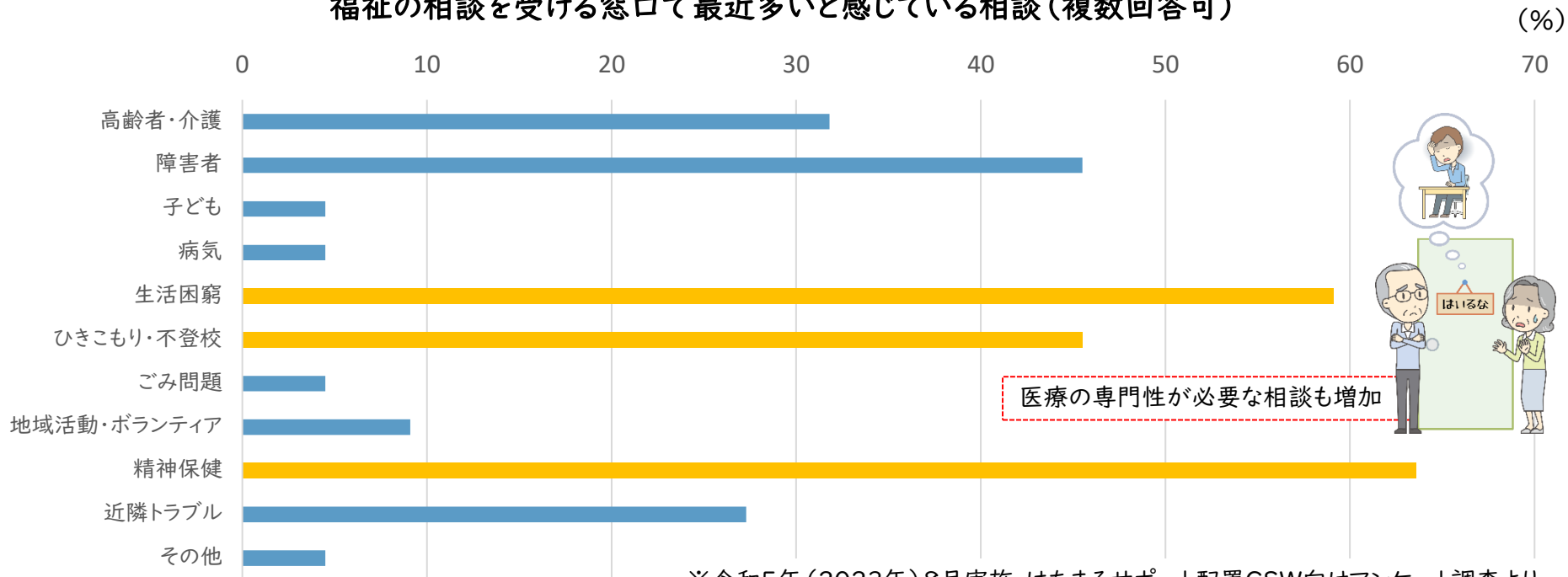


※ 令和4年度(2022年度)新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査結果より

問題が重なり合った相談も
受けとめられる
「福祉」の窓口をめざして

ひとつの支援機関では対応が難しい相談の増加

福祉の相談を受ける窓口で最近多いと感じている相談(複数回答可)



■ 問題の潜在化による重症化

… 生きづらさや精神疾患などの心理的な困難、孤独・孤立の問題など

■ 制度の狭間に落ち込む問題の増加

… ひきこもりや社会的孤立など、単体の相談窓口や専門性では対応しきれない問題の増加

急速な人口減少や人々の意識の多様化などを背景に、今まであった地域のつながりが弱まっている?

はちまるサポート（八王子まるごとサポートセンター）

“相談難民”を生まないための「福祉のよろず相談所」

支援の狭間に落ち込む生活課題や、複雑化・複合化した問題の相談を受け、状況整理しながら適切なサービスや支援機関に**つなげる**、福祉の総合相談窓口を設置しています。

(1) 運営日時

月～土曜日（祝日、年末年始を除く） 9時から17時

(2) 運営体制

コミュニティ・ソーシャルワーカー（福祉の専門職） 2名

(3) 機能

- ① **相談支援**機能（包括的相談支援）
- ② 課題を抱えている方等への継続的な**訪問支援**（アウトリーチ支援）
- ③ 課題を抱えている方等を地域や社会とつなぐための交流や社会**参加の支援**
- ④ 地域活動の充実、居場所や交流機会等を確保する**地域づくりの支援**

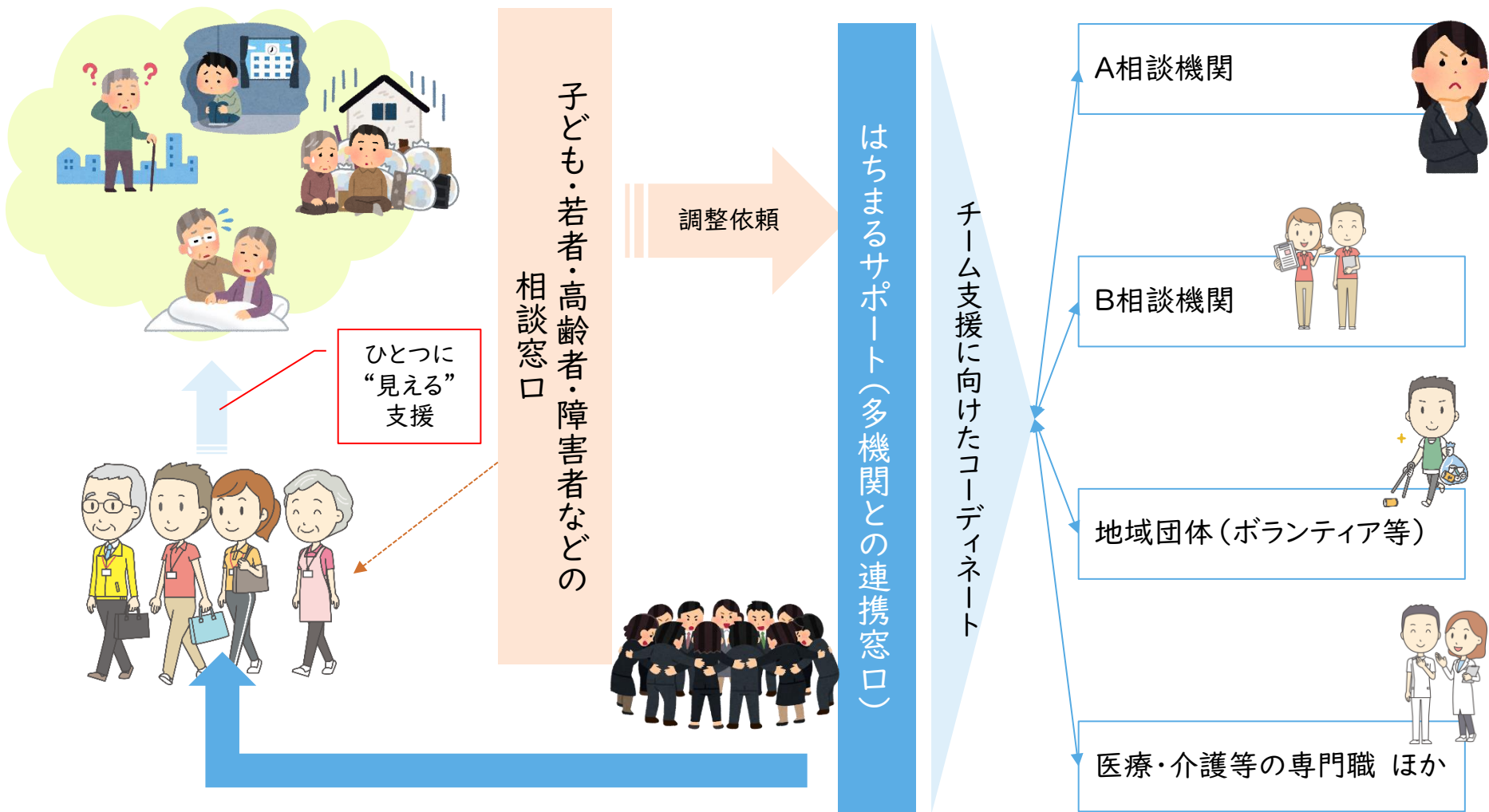
※ 八王子市社会福祉協議会への委託により実施



縦割りにならない支援を提供する仕組み

市民は親しみのある身近な相談窓口にご相談…

裏で支援チームを構成・支援の合意形成



地域を皆で守る「仕組みづくり」の考え方

「暮らし方」の選択肢が増え、困りごとにも多様化する中…

- ① 市民からの相談を「たらい回し」にしないよう、どの公的な相談窓口も受け止められる仕組み
- ② 複雑化した暮らしの問題を、地域住民や活動団体、公的機関等が協力して対応する仕組みを考えていきます!

【どんな相談も受け止めるとは??】

全て解決できる“魔法の箱(窓口)”を作る
話してはなく…



様々な専門性をつなぎ合わせた…
“サポートチーム”を結成し、一体となって
支援する「知恵と力の出し合う」仕組み



受け身の相談支援から日常に溶け込む支援へ

これからの「地域福祉」で市が力を入れていくこと…

問題をいち早く発見し、必要な支援につなぐ「早期支援」

地域住民が集まる様々な「場」に出向き、問題の早期発見、早期支援に向けた働きかけを行う
(早い段階での「気づき」「相談の促し」や、問題への対処に関する知識の習得など)

例えばこんな「場」で…

自然に囲まれた、安心できる“居場所”

はちまるファーム

— 小比企町の小さな畑 —

なんでも、
どうしたらいいか
わからないか…
誰かに話を
聞いてほしいな…

人と話したり、
外に出ることが苦手…
家庭や学校のほかに
居場所があったらいいな…

参加費
無料

土や植物・野菜に触れながらゆったりと過ごせる場所です
(詳細は裏面をご覧ください)

参加日：毎週木曜日
時間：10時～12時頃
参加費：無料
持ち物：農作業する場合は、
汚れてもよい服装、
長靴、手袋(貸し出し用もあります)
飲み物

山田町から徒歩10分
小比企町
豊栄地区

詳しい場所は職員からお伝えいたします

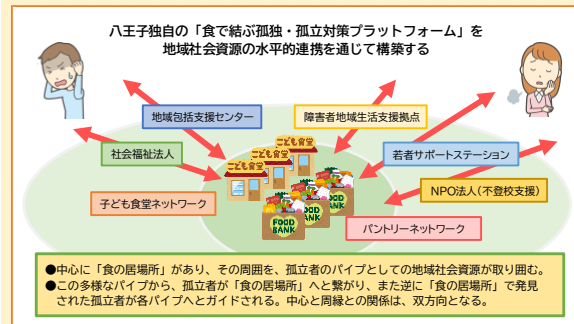
ひきこもり支援や孤立支援の
より福祉的な支援の場



「食」を通じて子どもや住民が
交流する「場」での支援
※ 地域主体による活動の場

「食で結ぶ孤独・孤立プラットフォーム」(NPO主体の令和5年度モデル事業)

- ①様々な居場所、相談窓口等の可視化やケース会議を通じた相互理解と連携
- ②孤立者の早期発見・悪化防止のプラットフォーム構築
- ③フードパントリー活動を通じた孤立者をつながりやすい仕組みづくり



民間企業との「共創」による
地域福祉の推進
(孤独・孤立対策など)

深刻化の要因となる「孤独・孤立」への対策推進

地域と公的支援を“つなげる”身近な場での孤独・孤立対策

受動的な
相談支援の場
(従来の支援体制)

公的な窓口に“つながりにくい”住民を適切な支援に“つながりやすく”する仕組み

孤独・孤立状態の早期発見・早期支援の仕組み
(孤独・孤立支援対策で地域生活課題の深刻化予防を推進)

身近な居場所づくり
(民間企業等が運用する
「場」を活用)

段階的な社会参加支援

はちまるサポート

「場」へのアウトリーチ
(医療との連携)

専門相談
(福祉・医療)
CSWiほか

「福祉」と“つながる”

支援に“つながる”

安心に“つながる”

社会と“つながる”

人材が“つながる”

地域

課題・ニーズの把握

発見、相談へのつなぎ
(課題の早期発見)

他分野の
支援機関

市と民間企業が有機的に連携する「プラットフォーム」の設置
(民間企業と一緒に作る新たな早期支援ネットワーク)

精神障害への早期支援の取り組み（モデル事業）

～住み慣れた地域で暮らし続けるための支援～

八王子市の様々な地域

他分野の
様々な支援
機関

困りごとを抱えた
住民

民間企業

など

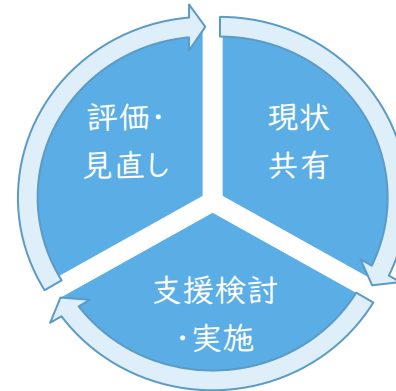
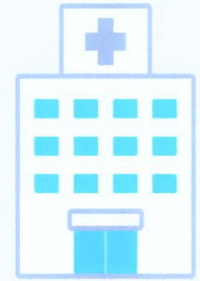
- ・ 個別訪問による相談対応
 - ・ 地域の集まりの場等での課題発見
 - ・ 講座や研修等の開催
- など

精神科医療機関

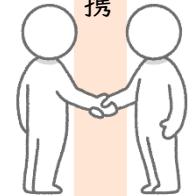
医療福祉連携相談員

精神福祉保健士
又は
看護師 等

モデル事業



連携



福祉の相談支援機関

はちまるサポート

(市内13か所)
コミュニティ
ソーシャルワーカー



さいごに

第4期八王子市地域福祉計画（R6（2024）～11（2029）年度）の特徴は…

意識・無意識に関わらず、人とひと、人と地域、人と情報、専門職と地域など、
様々な“つながり”が生まれやすい環境づくりを進めること。

しかしながら…

市と社会福祉協議会だけで、全員の“つながり”を担うことは難しい…

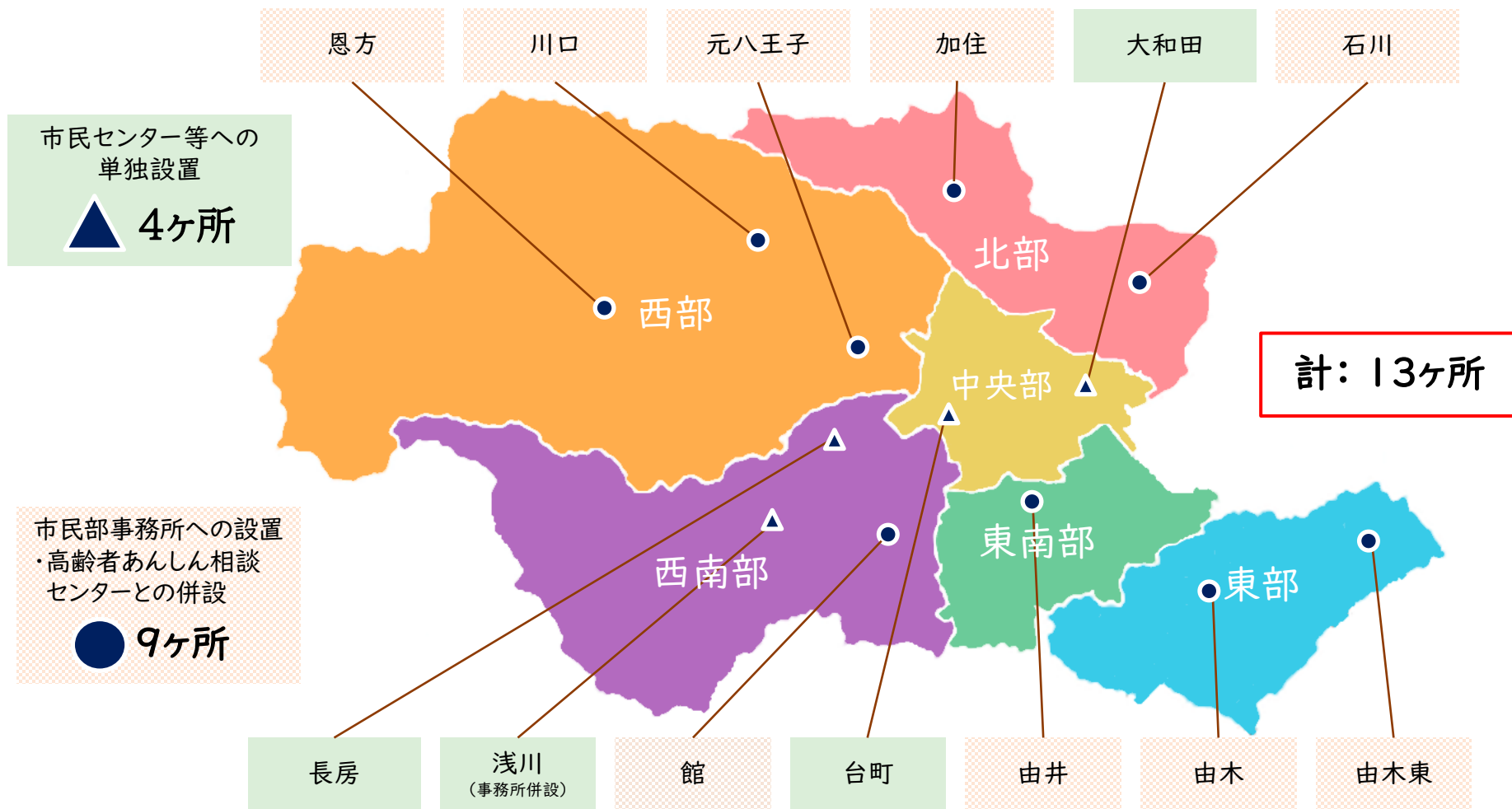


一人ひとりが“つながる”行動や機会をもつ（意識をもつ）ことが大切

安心できる・暮らしやすい日常の継続を目指して…

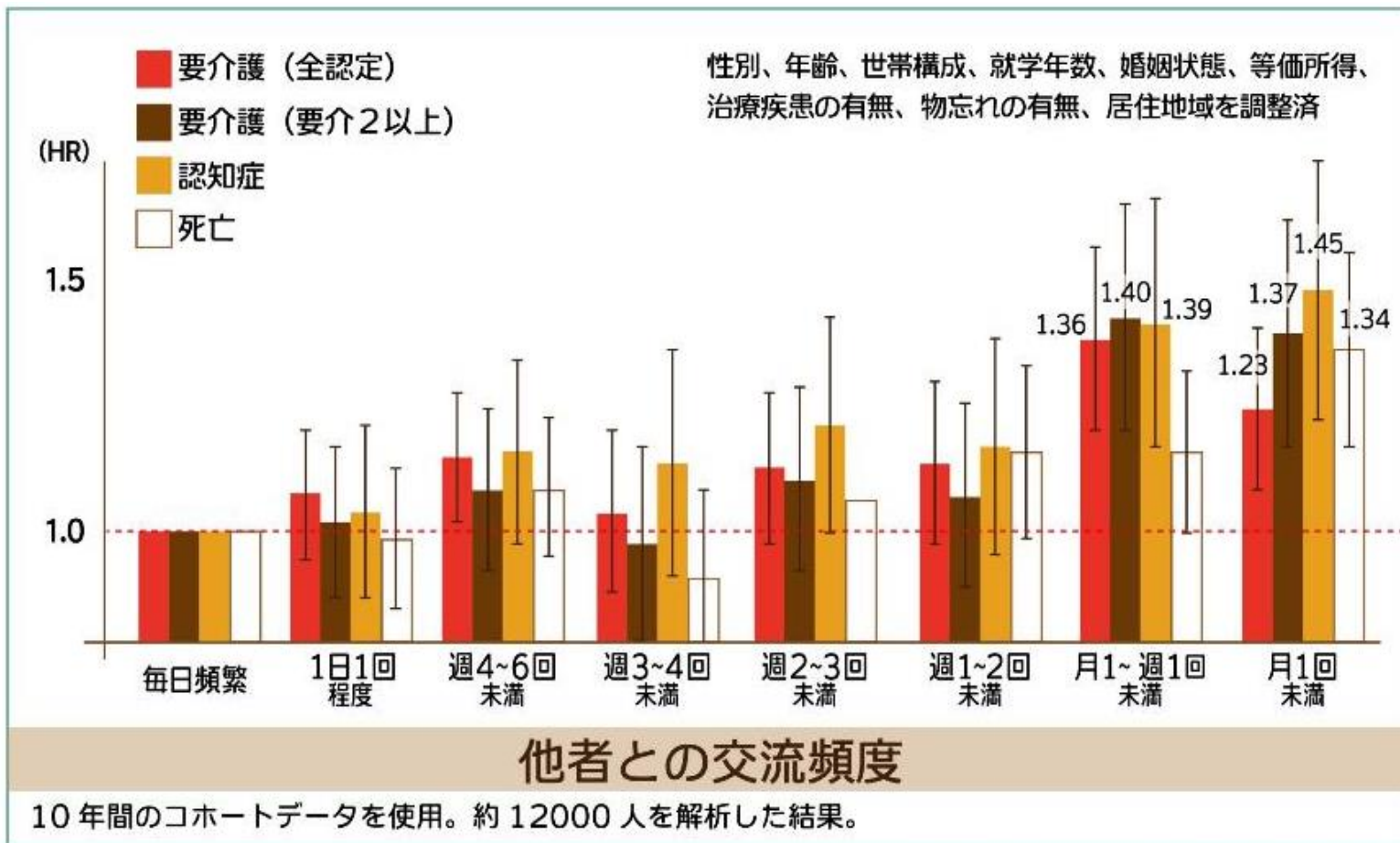
様々な“つながり”の連鎖で「地域福祉」を推進しましょう

参考：はちまるサポートの設置状況 (令和6年(2024年)6月末現在)



参考：人との交流は週1回未満から健康リスクに

～月1回未満では1.3倍、早期死亡に至りやすい～

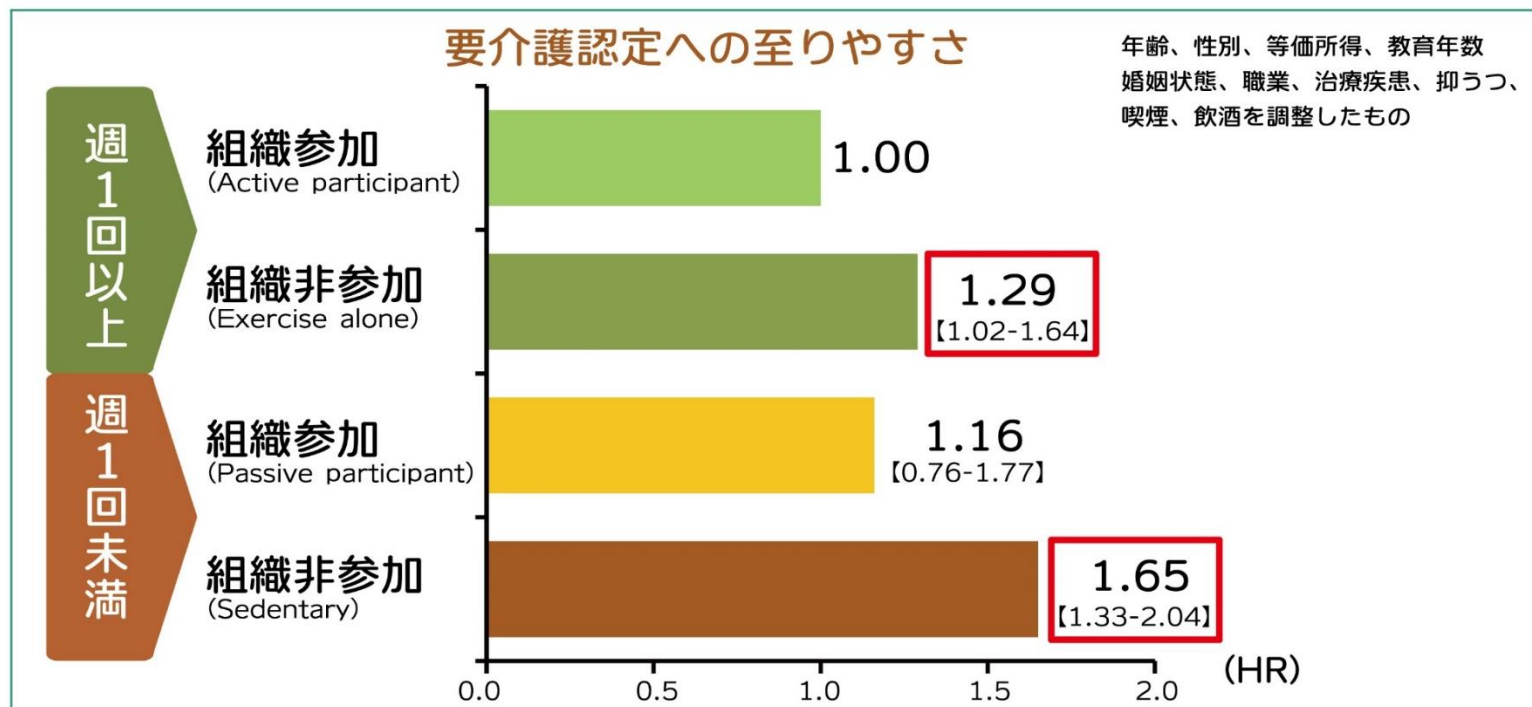


斉藤雅茂・近藤克則・尾島俊之ほか (2015) 日本公衆衛生雑誌, 62(3)より

参考:スポーツはグループで行った方が良さそう

頻繁に運動していてもスポーツ組織に参加していない人は要介護に至りやすい可能性あり。

⇒頻度が少なくても組織参加者は有意にならない

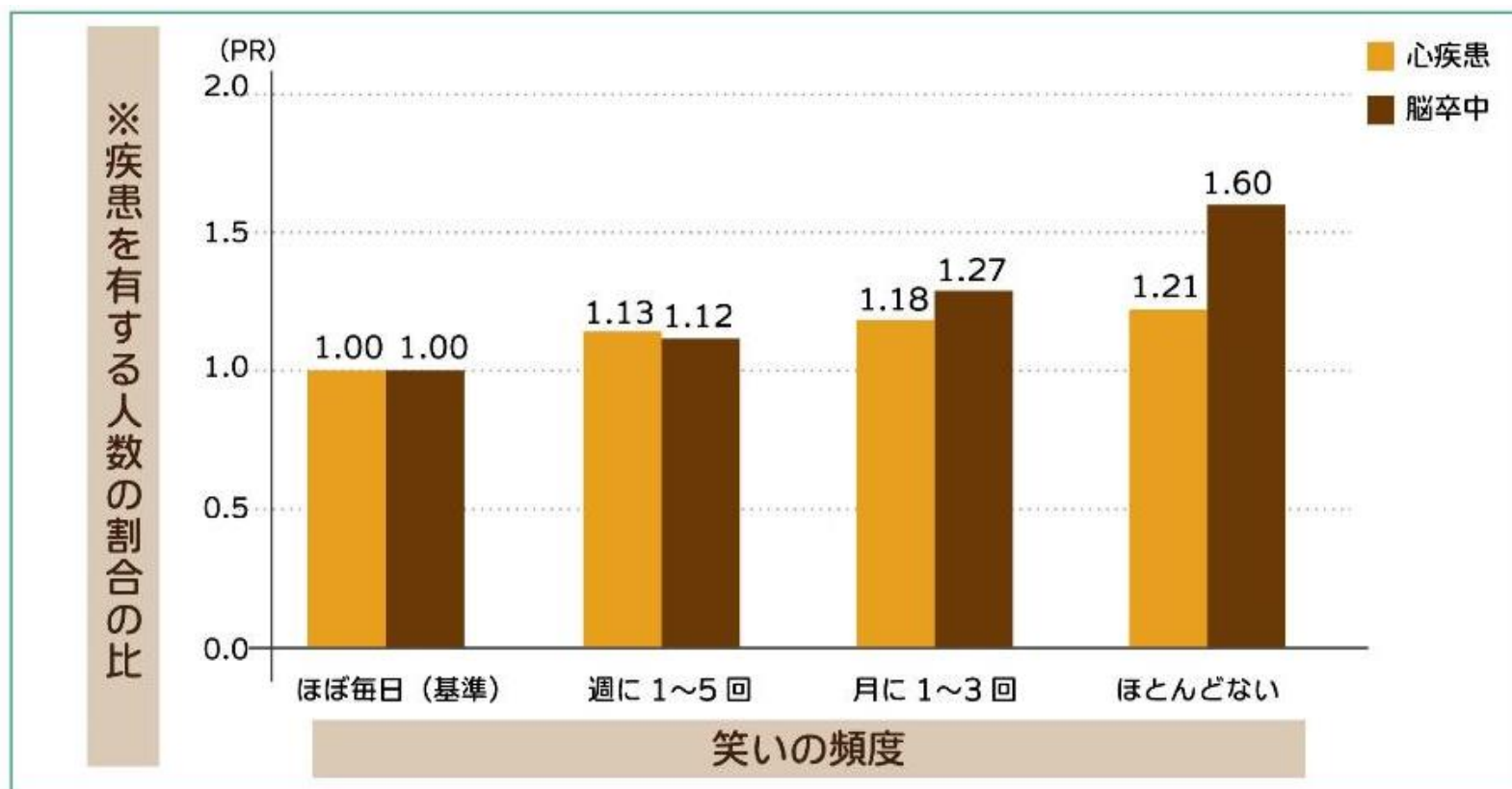


4年間のコホートデータを使用。約13000人を解析した結果。

Kanamori, S., Kai, Y., & Kondo, K., et al. (2012) PLoSOne, 7(11), e51061

参考：笑わない人は脳卒中リスク1.6倍増

ほぼ毎日笑う高齢者に比べ、笑う頻度が最も少ない高齢者は、脳卒中を有する割合が1.6倍、心疾患では1.2倍高い。



横断調査データを使用。約 21000 人を解析した結果。

Hayashi K., Kawachi I., Ohira T., Kondo T., Shirai K., Kondo K., et al. Journal of Epidemiology

ご清聴ありがとうございました

あなたのみちを、
あるけるまち。

